No.10

評 様式10

課題対応取組報告書 【共通】

名称	旭区東部地域包括支援センター
提出日	令和 8 年 6 月 16 日

カテゴリー（※主なものをひとつチェック）				
	☑	地域や専門職とのつながり等	☐	社会資源の創設（居場所づくり等）
	☐	認知症高齢者等の支援	☐	自立支援・介護予防・健康づくり等
	☐	その他（ ）		

活動テーマ	認知症を予防し、認知症になっても支え合える地域づくり
地域ケア会議から見えてきた課題	地域ケア個別会議を開催したケースのうち９０％が認知症で介護サービス利用中のケースである。 「認知症」に加え、「独居」「キーパーソン不在」「同居家族にも支援が必要」「経済問題」「地域住民、介護事業所や住宅管理会社とのトラブル（カスタマーハラスメント含む）」「虐待」など、課題が重複して対応困難となっている。 そのため、様々な課題が重複している認知症ケースに対応できるためのスキルアップや、多機関を含めた地域全体の支援体制を強化することが必要である。また、認知症の予防・悪化防止の周知・啓発活動、取組みも必要である。
対象	旭区東部圏域内の地域住民、地域関係者、専門職
地域特性	圏域内に大阪３大商店街とも呼ばれる「千林商店街」があり、それに連動する京阪沿線から発展してきた歴史がある。圏域内の高齢化率は上昇傾向にある。地域の民生委員、町会関係者等による見守り活動が積極的に行われており、地域包括支援センターと連携が取れている。
活動目標	①フレイル予防、認知症予防の周知・啓発を行う。 ②要援護者の早期発見・早期対応のため、地域住民や地域の支援者に認知症の啓発や認知症相談窓口について周知する。地域の身近な場所で相談できる機会も確保する。 ③認知症高齢者の支援を行う専門機関だけでなく、高齢分野以外の専門分野の多職種ともネットワークを強化するとともに学ぶ機会も確保することで、ケース対応時の円滑な連携、及び新たな要援護者の早期発見も図る。
活動内容（具体的取組）	①フレイル予防、認知症予防を目的として、地域にて体操教室、eスポーツサロン、あさひ健康ファームを開催。 ②認知症疾患医療センター、薬剤師会、強化型包括と連携し、地域住民を対象とした「ちょこっと勉強会＆相談会」を身近な地域の会館にて開催。区内包括、強化型包括と協働し、地域住民を対象とした認知症相談窓口の周知・説明会、認知症講演会、認知症映画上映会を開催。 ③認知症等高齢者支援地域連携事業への参加と「認知症区民講座」「認知症スキルアップの会」の共催。認知症初期集中支援推進事業関係者会議へ参加し、地域課題を共有。旭区自立支援協議会 高齢・障がい部会へ参加し、合同勉強会を共催。つながる場コアメンバー会議に参加し、ケース対応時に「つながる場」を活用。
成果（根拠となる資料等があれば添付すること）	① 体操教室、あさひ健康ファームにより、フレイル予防を図れた。eスポーツサロンでは楽しみながら認知症予防を図れた。 ② 古市会館にて、地域住民向けに「認知症講演会＆ちょこっと相談会」を強化型包括と共催。また、認知症相談窓口の周知・説明会、認知症講演会、認知症映画上映会を区内包括、強化型包括と共催。認知症の理解をより深め、より身近に感じる機会になったと考える。 ③ 認知症等高齢者支援地域連携事業、旭区自立支援協議会 高齢・障がい部会に定期的に参加し、勉強会も共催する中で多職種連携が図れた。認知症初期集中支援推進事業関係者会議に参加し、地域課題の共有と連携強化が図れた。地域ケア会議28回(うち、つながる場3回）の開催を通じて、多職種との支援体制構築が図れた。ケアマネジャー向けに、認知症研修「つながろう ひろげよう あさひ区の輪」を強化型包括と共催。高齢者に多くみられる精神症状と心理検査について共に学びながら、参加者同士が関係づくりを行う機会となった。
今後の課題	① フレイル予防・認知症予防は、周知・取り組みともに継続が必要である。 ② 認知症をより身近に捉えてもらえるための周知や勉強会の継続が必要である。 ③ 認知症等高齢者を支えるためには、認知症や高齢者だけでなく幅広い分野の専門職との連携強化が必要である。

※以下は、区運営協議会事務局にて記入	
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和８年７月22日（水）
専門性等の該当 （※該当個数は問わない）	☑ 地域性　☑ 継続性　☑ 浸透性・拡張性　☑ 専門性　☑ 独自性
評価できる項目（特性） についてのコメント ＊今後の取組継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	体操教室やあさひ健康ファームへの深い関わりに加え、強化型包括等と連携した「ちょこっと相談会」を各所で展開し、住民がアクセスしやすい動線に窓口機能を確保している。各種サロン活動を通じた日常的なフレイル予防により、情報共有やネットワークの質、基盤を維持し、高い継続性が認められる。また、区内全包括・強化型包括と協働した合同説明会や映画上映会の開催により、認知症関連の活動を地域へ広く普及・定着させている。専門職のチームアプローチからニーズを捉え、ケアマネジャー対象の研修で医学的知見に基づいたカリキュラムを提供し、最前線の対応力を底上げする後方支援を実践している。さらに、認知症予防として先進的なeスポーツサロンをいち早く導入している。他機関との重層的な協働と先進的プログラムが連動しており、5項目すべてを満たしている。